



サンゴの島の 暮らし発見 プロジェクト

in 喜界島

サンゴの島の暮らし 発見プロジェクト!

喜界島の海は豊かなサンゴ礁が広がり、
海を覗けばたくさんのサンゴや生き物に出会うことができます。

実は、喜界島は陸でもたくさんサンゴを見る事ができるんですよ!
それは、私たちが住む喜界島は昔海底だったところが地殻変動で
持ち上がってできた、「隆起サンゴ礁」の島だからです。
そのため、陸では昔生きていたサンゴが化石となって観察することができるんです。

「サンゴの島の暮らし発見プロジェクト」は、喜界島の皆さんと
喜界町役場・喜界島サンゴ礁科学研究所・WWFジャパンと一緒に
喜界島の暮らしに根付いたサンゴにまつわる文化を発掘し、
未来へ伝えるために、このブックにまとめました。
このブックを片手に、喜界島の暮らしの中に生きているサンゴ達を見つめましょう!

「サンゴの島の暮らし発見プロジェクト」が発掘した
サンゴ礁文化を太郎くんと
サンゴ博士と一緒に巡ってみましょう!



喜界島の サンゴ礁文化ってなに?

喜界島の人々は古くからサンゴの化石を石材として利用してきました。
暮らしの中にはサンゴが根付き、
神様として祀られているサンゴの化石もあります。
また、隆起サンゴ礁の地形は、独自の漁や習慣を生み出しました。

それは、サンゴ礁からの恵みを受けた「サンゴ礁文化」です。



喜界島でよく見られる サンゴ礁文化



サンゴの石垣

集落のサンゴの石垣は、サンゴの化石を積み上げ、作られています。早町地区に多くの石垣が残されており、中にはきれいに成形された石を使った石垣もあります。どんな形や種類のサンゴが使われているかじっくり観察してみてください。



芋などを洗う鉢

鉢の底には水を抜くための穴が開けてあります。さつまいもと水を入れて足で洗ったそうです。ハマサンゴの化石を丸々くりぬいて作られています。使われなくなると植木鉢にされていたりします。



喜界島の海に生きる 豊かなサンゴとサンゴ礁

喜界島の海には、美しいサンゴ礁が広がっています。
サンゴ礁は地球上の海の面積のたった0.2%しかありません。
そこには海の生き物の種類約1/4が暮らしています。
美しいだけでなく多くの命にとってサンゴ礁は大切な環境なのです。



サンゴ礁は地形

死んだサンゴの骨が積み重なり、長い年月をかけサンゴ礁になります。
喜界島は昔海底だった場所が、地殻変動で海の上に持ち上がってきました。
今、私たちが立っている喜界島のこの場所は
その昔、豊かなサンゴが暮らすサンゴ礁でした。

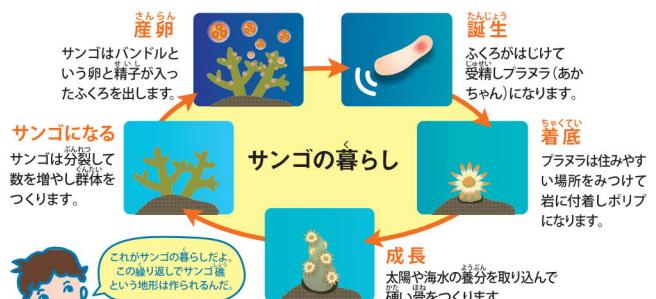
サンゴについて知ろう!



サンゴは植物なの?

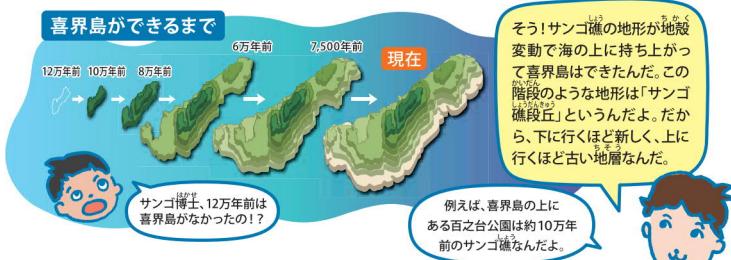
サンゴは動物なんだ。

サンゴはよく「石」や「植物」と思われるがちですが、サンゴの表面は「ポリップ」という柔らかい体でできていて、その中に硬い骨を持ってるんだ。サンゴは、イソギンチャクと同じ刺胞動物の仲間なんだ。



なぜ、海に住んでいる サンゴの化石が陸にあるの？

喜界島の成り立ちを紹介！サンゴの化石が島中にある謎が解けます。



昔は海の中だった!



**僕たちが今、立っている所は
昔、海だったんだ！**

ちかく海底変動で海底が隆起して、浅くなった所にサンゴが住みついで、サンゴ礁ができるのが喜界島の始まりなんだ。その後、さらに海底が隆起して、海の中にあったサンゴ礁が島になった。それから10万年間、隆起するたびに島の周りにサンゴ礁が広がって、また隆起する…というのを繰り返して今の喜界島の形になったんだよ。

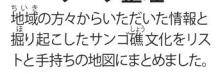
こうして、 サンゴ礁文化を発掘しました！

1 聞き取り調査



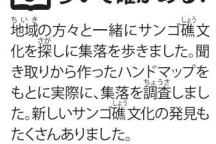
地域の方々と集落の航空写真・地図を確認しながら
文化の聞き取りヒアリングを行いました

2 リスト化・データ整理



みんなからもらった、

3 歩いて確かめる!



4 イラストマップを作る!



びじゅつぶ
喜界高校美術部さん、ありがとう!

荒木集落

漁業と農業が盛んで遊びや暮らしの中にサンゴがたくさん。



① 石切場

荒木漁港近くの海岸に残る、サンゴの石材を切り出していた跡です。切り出した石材は墓石にしたり、家の柱の土台、手水鉢にしたり、砂糖を作るときの石灰の原料にしたそうです。



② クリバマ

台風のたびにサンゴの石が上ってくる浜です。このサンゴの石は平たく丸く削れています。「コラカトゥールイシ」と呼ばれています。国立公園に指定されている区域でもあります。美しい海岸植物の群落が残されています。

③ ガジュマルと石垣

映画「島育ち」の撮影場所です。昭和40年代ごろまでは集落のほとんどの壁がサンゴの石垣で、屋過ぎになると木陰でお年寄りの方々が集い、涼みながら語らう光景が見かけられたそうです。



④ サンゴの灯籠

集落には、サンゴの石材をくりぬいて造られた灯籠が残されています。今でも、集落のお祭りの際にはろうそくを灯したサンゴの灯籠を目にすることができます。



ティーザー 楽しそう!
7つのサンゴの石を使った昔の遊び。
ちょうど良い大きさの
サンゴの石は宝物!
ティーザーは大人も子どもも楽しめる、海岸にサンゴの石が落ちている喜界島だからこそできる昔の遊びです。昔の子どもたちはティーザー用のサンゴの小石を探しては、それを宝物にしていたそうです。

上嘉鉄集落

嘉鉄魂！色濃く残る海との繋がりと
湧き水に恵まれた水豊かな集落。



1 水神様

水が多く湧き出る上嘉鉄集落の水の守り神です。
御神体の覆いはサンゴの化石をくりぬいて作られており、サンゴの年輪もはっきりと観察できます。

2 遺品(着物)を洗う潮だまり

亡くなった方の着物を潮溜まりで洗う「ちん洗い」という風習がありました。他にも七夕流しという七夕の笹を海に流す風習が残っていたり、夜にイザリ漁を行ったりと、集落近くにある海を上手に利用しています。



イザリ漁

夜の海で行う磯採集です。
昔はカーバイトラップの明かりを頼りに、夜光貝やエビ、タコなど、夜に浅瀬にかかってくる生き物を捕まえていました。トーケージャーという鉤状の道具を使って岩陰のタコを捕まえたり、魚を鉤で突いたそです。



シチャミ

旧暦8月最初の丁の日「節折目(シチウニミ)」に子どもの厄払いと成長を願つて行われる行事です。集落の水源地にもなっているヤンガーとウッカーという泉が聖水として使われています。



早町・白水・塩道集落

古くから喜界島の表玄関として栄えた港町。
今と昔のつながりを物語る史跡が残ります。



薩摩藩が喜界島を支配していた17世紀ごろ、砂糖の取り立ては早町港から積み出されていました。港へ続く道はクチャバタと呼ばれる泥の坂道を通るため、雨天時には大変な苦労があったと伝えられています。涙石はその坂道のサンゴの化石で造られた敷石で、当時を伝える石碑となっています。

① クンビー様

イボ治療の神様として親しまれています。できたイボの数だけ炒った豆を供えて、後にその豆を十字路に埋めて誰かに踏まれるとイボが治ると言われています。サンゴの化石に囲まれたクンビー様は島の外から持ち込まれた火山の岩石でできています。

② 涙石



志戸桶集落

みかんの木が多い平家上陸の地。
広い隆起サンゴ礁の平地が広がっています



① ビンドゥン様

ノウサンゴの化石がそのまま神石として祀られています。漁師さんが海に浮かんでいたのを見つけ、海に戻してもなんども戻ってきてしました。不思議と思って巫女にみてもらうと、この石は神石なので大切に祀りなさいと言わわれたそうです。集落の方々に大切にされている靈巖あらたかな占い石です。



2 菅原神社

すからぢみちひき 王宮道真を祀る天満宮です。境内には、サンゴの化石で作られた石碑や灯籠がいくつもあります。擬宝珠も塊状のハナガササンゴの化石を丸々使って作られています。



喜界島サンゴ礁科学研究所

サンゴ礁の環境を再現した水槽・展示をご覧になれるサンゴミュージアムを併設しています。



〒891-6151
鹿児島県大島郡喜界町大字塩道1508
お問い合わせ ☎ 0997-66-0200
(ホームページ) <https://kikaireefs.org>

制作・発行:公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン

制作・協力:NPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所

2020年3月出版

クレジット表記が無い写真は全て©喜界島サンゴ礁科学研究所



人と野生生物が共に自然の恵みを受け
受け継がれる世界を目指して、
活動しています。

together possible. wwf.or.jp

®"WWF" is a WWF Registered Trademark ©1986 Panda symbol WWF

このリーフレットは住友生命保険相互会社のご支援を受けて作成しました。

あなたの未来を強くする 住友生命

